

主日礼拝

2021年6月13日
午前10時30分

前奏 「天の父の子どもたち、神のお守りのうちに」
(D.フ・ストット)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「わたしの魂よ、主をたたえよ。
わたしの内にあるものはこそって
聖なる御名をたたえよ。
わたしの魂よ、主をたたえよ。
主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。」
(詩編103:1,2)

リタニー「みんなのいのちを」

司式者：さわやかな風の吹く季節に
みんな：神さまを賛美します。
司式者：あたたかい風、聖霊がわたしたちを
つつみます。
みんな：神さまありがとうございます。
司式者：花の日・子どもの日に
みんな：神さまを賛美します。
司式者：イエスさまは言われました。
みんな：「野の花がどうして育つのかよく
見なさい」と。
「空の鳥をよく見なさい」と。
司式者：こどもたちは、神さまの家族への
贈り物。
みんな：神さま、みんなのいのちをありがとう
ございます。
司式者：わたしたちは、神さまの友達への
贈り物。
みんな：神さま、すべてのいのちをありがとう
ございます。
司式者：共に生きるようにして下さった
神さまの愛。
みんな：その愛を忘れずに生きてゆきます。
司式者：父と子と聖霊の御名によって、
みんな：アーメン。

祈禱

献金 献金箱が受付に置いてありますので、
礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出されたまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 マルコによる福音書 5:25～34

新約(新共同訳) P70

さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体感した。イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らさなさい。」

賛美 484(1・2・4)「主われを愛す」

Jesus loves me, this I know
詞: Anna B. Warner, 1820-1915

JESUS LOVES ME
曲: William B. Bradbury, 1816-1868



- 1 主われを愛す、主は強ければ、 2 わが罪のため さかえをすてて、
われ弱くとも 恐れはあらし。 天よりくだり 十字架につけり。

(くりかえし)

- 4 わが主イエスよ、われをきよめて、 わが主イエス、わが主イエス、
よきはたらきを なさしめたまえ。 わが主イエス、われを愛す。

説教「心の行ったり来たり」

賛美 60「どんなにちいさいことりでも」

詞: 菅千代, 1926-

DONNANI CHIISAI
曲: 広瀬量平, 1930-



派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏 「造られたものはたたえよ み神を」
(R.G.ゲイル)

司式 大代 恵
説教 向井 希夫牧師
奏楽 玉理 照子

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。